



# 出 藍

平成26年9月1日発行

〒358-0003

入間市豊岡1-15-1

埼玉県立豊岡高等学校

同窓会 会報編集委員会



## ローマは一日にして成らず

同窓会長 本 下 博

日本の人口は、二〇〇八年をピーク（一億二千八百万人）に減少に転じ、今世紀末には四千万人台とも言われています。加えて少子高齢化が急速に進み、国の基盤を大きく揺るがしかねない事態も予測されています。確かに人口減少は、生産力や消費活動を弱め、経済成長に大きな影響を与えます。年金、医療、介護、財政再建など解決困難な問題を抱える日本にとって、拱手傍観は許されません。

政府は、五十年後の日本の人口「一億人維持」を政策目標として、その対策を打ち出しました。その中で、少子化対策としての子育て支援策、特に学童保育の拡充による女性の社会進出

の支援や、地方都市活性化のため、地方中枢拠点都市を指定して、その地域圏の経済成長の牽引役を担わせる制度などが目につきます。この中枢拠点都市は、周辺市町村と連携し、それぞれの自治体の役割分担や地域圏のまちづくりの方向性を定めて、産業、観光振興などに取り組むことを目指すとしています。

日本は島国で、居住可能区域は三〇%といわれています。また、地震をはじめ自然災害が多く発生し、住環境の安全を図るためには莫大な予算を必要としながら、石油、天然ガスなどの化石燃料は少ない国です。更に、昭和四〇年代から道路や橋梁、学校などの公共建築物が一斉に

建設され、その多くが改修の時期を迎えています。これらの解決困難な問題を考え合わせると、無理な人口増加対策を講ずる前に、人口減少社会の諸課題を検討し、それらの結果によってはその現状を容認し、その状況にふさわしい国土づくりをめざすべきとする議論も耳にします。

いずれにせよ、未知の世界に足を踏み入れた日本人の責任として、子や孫たちが安心して暮らせる国の基盤づくりに英知を集め、汗を流さなければなりません。「ローマは一日にして成らず」の格言を胸に、しっかりとした目標に向かって地道な努力を重ねることが、明るい未来づくりに大切なことと思います。

特集  
同窓会報「出藍」  
発行の軌跡

第一号

平成22年3月10日発行



創立九十年に合わせ創刊

同窓会報『出藍』は、平成二十二年三月十日に第一号が発行されてから、今号で第七号となります。創刊以来、学校応援団の役割を担う豊農・豊実・豊高卒業生の皆様の交流の一助になればという願いの下、紙面の改良や原稿の収集に努めてまいりました。

ここでは、過去四年以上にわたる会報発行の記録を、各号ごとにまとめてみました。

同窓会報『出藍』第一号が創刊された平成二十二年は、大正九年に豊岡農学校が設立されてから九十周年目の節目にあたります。九十周年を祝う動きが盛り上がりを見せる中、豊農・豊実・豊高の同窓生同士の交流や絆を深める事を目指し、多くの同窓生の尽力により、会報の創刊が成ったのです。会報名は豊高校歌の歌詞にある「出藍の誉」より選ばれました。

第一号では、様々な世代の多くの同窓生から学生時代の思い出が寄せられました。

第二号

平成22年11月1日発行

初の座談会開催

『出藍』の発行は、基本的に一年度一回ですが、この年には九十周年を記念して、座談会特集号を発行しています。

座談会では、「今に伝えたい豊高精神」と題し、同窓会長 木下博氏、副会長 仲川幸成氏、人間市教育長 村野志朗氏と、豊高校長（当時）の成瀬英二氏が豊校への熱い思いを語り合いました。会の中では、三人の卒業生がそれぞれの時代の豊高の思い出を披露し、また、地域社会の中で豊高が今後どのような発展を遂げているのか議論されました。



第三号

平成23年3月10日発行

九十周年記念式典を報告



豊岡高校の創立九十年記念式典は、平成二十二年十一月二十日に盛大に挙行。歴史を再確認し、百周年に向けた同窓会活動の重要性を考えさせるきっかけとなりました。第三号は、式典の報告を中心に紙面を構成し、創刊号から続いた九十周年の盛り上がり締めくくっています。

発行の翌日、東日本大震災が発生。多くの日本人が、自分自身とその取り巻く環境を見つめ直す事となります。同窓会は、各同窓生の「絆」を深めるとい意味でも大変重要な存在となりました。



コラム  
『同窓会報』と『学友会報』

『学友会報』とは、戦前の豊岡実業学校において編集されていた生徒会報です。会報は昭和五年から昭和十六年頃まで毎年発行されており、その内容は、生徒達の文芸作品や部活動の活動記録などとなっています。これは、現在も生徒達の手により発行されている『ゆたか』とよく似ており、同窓生の手による今日の『同窓会報』とは少々性質の異なるものと言えます。同窓会では、この『学友会報』のうち、昭和十年代に発行されたものを保管しています。

第四号

平成24年3月10日発行



紙面構成の基本が完成

同窓会報は、同窓生達の声が様々な形で発信される場であればなりません。第四号では、同窓生達の活躍や思いを発表する場として、豊高卒業生の活躍をレポートする「豊卒見聞録」や、著名な卒業生の手による寄稿文「卒業生からの手紙」といった新しいコーナーが設けられました。

その他、同窓会報告「Tea Time」が三号から引き続き連載されるようになるなど、同窓生の声を発信する場として、紙面構成の基本がまとまった号となりました。

第五号

平成25年3月10日発行

「思い出語り」開設

『出藍』には、第一号で「豊高の思い出」というコーナーが設けられて以降、同窓生達が豊高・豊実・豊高在学中の思い出をざっくばらんに語るコーナーがありませんでした。そうした、個々の同窓生による思い出を語り合うコーナーを復活させるべく、第五号で設けられたのが「思い出語り」です。

このコーナーには、様々な世代の同窓生から在学中のエピソードが寄せられており、六号以降も寄稿者を増やしつつ、連載を続けていきます。



第六号

平成25年12月10日発行



初のカラー版同窓会報

『出藍』は、この第六号からカラー刷りとなりました。これまでの白黒印刷では、写真等を目立たせることができませんでした。今回の改良によって紙面が鮮やかに進化しました。また、ページ数もこれまでの十ページ構成から十二ページ構成へと増量し、同窓生の声を発信するコーナーが一層充実しました。

読みやすい紙面作りや各世代からバランスよく原稿を収集する方法等、まだ課題も多い『出藍』ですが、これ迄に得た教訓を生かしつつ、今後進化を続けてまいります。

コラム

豊高の周年誌について

豊高では、長い歴史の中で、いくつか周年誌が発行されています。これまでに編集された周年誌には『創立三十五周年記念誌』（昭和三十一年）『創立五十周年記念誌』（昭和四十七年）の二種類、そして、記念誌という名前はないが、『豊岡高等学校70年』（平成五年）という写真集があります。いずれも貴重な写真や文章から過去の学校の様子を窺い知る絶好の資料です。同窓会では、来るべき百周年に向けて、新たな周年誌の編集が始まるうとしています。



「出藍」九月発行の経緯

◆『出藍』発行の経過は、本紙2頁の通り。当初は、3月10日の発行で、記事の殆どが一年遅れの内容となり、事業計画・予算案も意味がない。そんな会報は、読者には無用の長物。そこで4号発行の直後から検討を開始した。

◆委員会が為すべきは、本会目的達成のために、会員諸氏との絆を結ぶ記事に命を吹き込む事である。それは、可能な限り早くこの『出藍』を読者の手元に届けることに他ならない。

◆侃侃諤諤。漸く24年7月17日に決定を見た—9月上旬発行がよからうと。為に、先ず3ヶ月の前倒しで6号を。更に3ヶ月の前倒しで26年9月に7号を発行しよう。

◆斯くて今日、9月1日付で7号の発行を見た。折々の見直しを忘れまい。



# 骨太の進学校をめざして

学校長 内田 一雄

## 皆様、初めまして

豊岡高校同窓会の皆様、初めまして。本年度四月、県立学校人事課学校管理幹としてご栄転されました関口恭裕校長先生の後任として和光高校から参りました内田一雄と申します。創立百年になろうとする伝統を有する名門豊岡高校の校長として赴任し、身の引き締まる思いを感じるとともに、微力ながらも全力で生徒、教職員、地域のために粉骨砕身の努力を致す覚悟で居ります。木下博同窓会長様を始め同窓会の皆様、母校へのご支援ご協力を引き続きよろしくお願い申し上げます。

## 本年度の方針

入間高校との再編整備に当たり「進学重視型単位制」への改変に舵を切った大方針は当然そのまま踏襲です。本年度は、旧課程と新課程が併存する最後の年度です。現三年生には旧課程最後の豊高生として誇りを持って堂々と卒業していったらいいと思っています。そして新課程の一・二年次生には、早めの進路設定と単位制の特徴を活かした授業計画の下各自高校生活を充実させてほしいと願っています。

生徒たちには始業式で次のように話しました。三本の矢で、しつかり三つの

的を射抜いてほしい。具体的には、勉強と部活と学校行事の三つの的です。創立当初から大切にしてきた「質実剛健・文武両道の豊高魂」をきちんと伝承した、骨太な進学校を目指していきたくと考えています。更に、「時を守り、場を清め、礼を正す」の励行も求めました。

また、本年度は文科省から委嘱されました「英語の授業力向上研究」の完成年度でもあります。高度情報社会のグローバル時代に、国際的に活躍できる人材を輩出する進学校としても埼玉県西部の雄として聳え立ちたいと考えて居ります。

## お話し下さい

### 後輩たちへの講演会

同窓生の先輩方にお願いがございます。ご多忙と

は存じますが、後輩たちの立志支援のために是非ご経験をご披露頂きたくお願い申し上げます

## 「県立高校海外派遣プログラム」報告

### アメリカでの10日間

三年 岡部 充輝

まず、一番印象に残っている事は、やはりハーバード大学とMITに行き、研究所訪問やレクチャーを受けたことです。MITでは、レーザー

忘れられないものになりました。他にも企業訪問や美術館などたくさんの方々の素晴らしい経験ができました。

を鏡で反射させる実験や、ストロボ写真を使った実験、ロボットのプログラミングなど思っていたよりもかなり楽しいものでした。この経験はきっと、人生で一度しかできない貴重なもので、一生



ハーバード大学

しかし、その中で後悔している事は、あまり質問や自分の意見を言うことが出来なかつたことです。アメリカでは自分の考えをしつかり持つというところがとても大事だと感じました。今回のプログラムで感じた事は、自分

本校男子バスケットボール部は埼玉県内でも有数の強豪校として名をはせていた歴史と伝統のある部活動でした。

しかしながら、公立高校の増加や私立高校の台頭により、その後長きに渡る低迷期を迎えることになり、現在に至っていません。

着任当初より、部員に対して、あらゆることに変革を求めるとともに、「やるか」「やらないか」ではなく「やるしかない」と言い続けてきました。その結果として、二年目の秋には、十数年振りに県大会への出場（関東高等学校選手権大会埼玉県予選へ

**部活動訪問（第5回）**  
**男子バスケットボール部**  
**『妥協なき挑戦！』**



スト16)を果たすことができました。三年目を迎える今年度には部員数も倍増し、一年生21名、二年生10名、3年生10名の総勢41名の大所帯となりました。部員の中には「豊岡高校でバスケットがやりたい」と

言って入学を決めた者も少なくありません。進学校を看板に掲げているものの部活動の強化は容易なものではありませんが、文武両道を実現するための努力も忘れないように心がけています。

平成26年3月卒業生の進路先

四年制大学	短期大学	専門学校	就職・公務員
275	26	76	6

= 主な進路先 =

【四年制大学】新潟大学、学習院大学、中央大学、法政大学、成蹊大学、武蔵大学、日本大学、東洋大学、専修大学、獨協大学、文教大学、東京理科大学、東京薬科大学、芝浦工業大学、東京農業大学、東京電機大学、工学院大学、女子栄養大学、共立女子大学、昭和女子大学、東京家政大学 他

【短期大学】青山学院大学女子短期大学、大妻女子大学短期大学部、実践女子短期大学、白梅学園短期大学 他

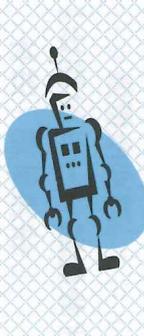
【専門学校】東京都立北多摩看護専門学校、国立西埼玉中央病院附属看護学校、武蔵野調理師専門学校 他

【就職・公務員】埼玉県警察、陸上自衛隊、プリンスホテル、かにや 他

試合はもちろん、長期休業中には県外への遠征合宿を実施するなど、着実に強化を図っています。私立高校の台頭が著しくその中に割って入るのは非

常に厳しい状況ですが、「私学への挑戦」をテーマに古豪復活を目指し、妥協なき挑戦を続けていきたいと思っています。  
(顧問 白木恭彦)

の意見をきちんと持ち、それを表現することが大事だという事と、なんでも挑戦して努力してみないと分からないということ。そして、ポストンは町も人もとても輝いていて強い憧れを持ち、また戻って来たいと思いました。その時までに英語でのコミュニケーション能力をもっと身につけたいです。最後に、今回僕はこのプログラムに参加し、世界の広さを見て、さらにこれからのグローバル社会に貢献したいと思いました。今回の経験を学校の人達にも伝えることで、もっと世界に目を向けてもらえればうれしいです。そして、今回感じたこの気持ち忘れずに自分の未来に向けて頑張ります。





### 『誇り高き母校』

林 優美香 (平25高卒)

「よろしくお願ひ致します・新同窓会員のあいさつ」

私たちは平成25年度卒業生は、この度、新同窓会員となりました。歴史ある豊岡高校の同窓会員になれたことを光栄に思います。どうぞよろしくお願ひ致します。

豊高で過ごした三年間はとても濃密で、私たちが大きく成長させてくれました。それぞれが勉学に励み、部活動や生徒会活動によく取り組みました。その中で協力し合うことの大切さやひとを思いやる心の温かさなど、多くのことを学び、感じることができました。ひとつのことを仲間とやり遂げることで、大きな達成感を得ることもあります。

した。その全ての経験を保持して、今の私たちが在ると感じています。改めて、感謝の気持ちが込み上げてくる思いです。

そして、これまで豊高が伝統を持って、地域に根強い歴史を築くことが出来たのは、先生方や地域の方々のお力添えはもちろんのこと、同窓会の皆様からだと感じました。これから私たちは、豊岡高校同窓会員として誇り高き母校をしっかりと見つめていきます。そしてこれから後輩達が築いていく豊高の新しい歴史と伝統を見守っていききたいと思ひます。

### アーチェリー 駒形V

平成26年度全国高校校身体アーチェリー競技会(8月1日(土)4日(火)が、千葉県市原市の市原緑地公園で行われ、三年生の駒形竜成選手が個人戦で優勝を果たしました。



2日の予選は、強風の中、思うようにスコアを伸ばせず18位。しかし翌3日、頂点に挑む全国の強豪64選手を相手に、決勝トーナメントの駒形は違いました。

- 1回戦 (兵庫・甲南)
- 駒形竜成 6-2 米田達哉
- 2回戦 (埼玉・大宮開成)
- 駒形竜成 6-0 大久保智幾
- 3回戦以降はジュニアナショナルチームや元ジュニアナショナルチームの選手と当たる厳しい展開でした。

- 3回戦 (愛知・愛産大三河)
- 駒形竜成 6-4 近藤直哉
- 準々決勝 (東京・二ノ宮駒場)
- 駒形竜成 6-5 窪田達哉
- 準決勝 (佐賀・高志館)

## 駒形竜成君インターハイで全国制覇

駒形竜成 6-2 古賀翔太  
決勝戦は高円宮妃殿下御臨席の下山梨・甲府第一高校の長田來人選手と対戦。6-2で接戦を制し、駒形選手自身初めてのビツクタイトルを手に入れました。

駒形君は「大先輩でも競技を続け、東京五輪を目指したい」と新聞取材(読売八・四埼玉版)に答えています。



本校・橋本先生「昭」  
表彰を受賞  
本校・橋本浩先生(昭)が、表彰されました。

本校・橋本浩先生(昭)が、表彰されました。高校生を中心にアーチェリーの普及育成に努め、公認スポーツ指導者の資格を取得されました。また、埼玉県アーチェリー協会の副理事長、国体強化委員としてもその普及に貢献し、後進の育成・指導に永年尽力されたことが高く評価され、公益財団法人日本体育協会より平成二十五年度表彰されました。

橋本先生の指導のもとアーチェリー部は関東大会、全国大会等に出場し、また、日韓交流大会選手中にも選出されました。



一、弁護士を目指した理由

私は誰かに依存して生きる事が嫌いです。少し大げさですが、誰かに依存すれば、その分、自分の生活を他人に支配されてしまうからです。私は、幼い頃から、「自分で責任がとれるならば自由に行動してよい」と教育されてきました、

二、高校時代

そのころが右の考えに影響しているのか、もしもありません。このような考え方は、自分の将来を決める際にも影響しました。今思えばあまりに単純ですが、その当時は、日本で一番難しいとされる司法試験に合格して弁護士になれば、誰にも依存することなく自由に働くことができるので

はないかと思つたのです。誠に単純ですが、これが、私が弁護士を目指した理由です。

三、司法浪人時代

当時、豊岡高校では、進路指導として二者面談が行われていました。その際、進路について問われた私は、先生に対し、将来弁護士になりたいたと告げました。すると、冗談だと思われたのか、先生は笑いながら、もう一度考え直さなさいとおっしゃいました。それほど当時の私（成績も含め）と弁護士という職業はかけ離れていたのです。それでも私は考えを曲げず、結局、弁護士を目指すことにしました。

諦めない

高校時代に決めたこと

真和総合法律事務所 弁護士 星野 伸晃

されたために、司法試験合格者数が年々減らされていった時期でした。そのため、年々合格のハードルは高くなっていき、他方でロースクールの高額な学費を捻出する経済的余裕もありませんでした。正直、私は絶望しました。友人が

られていき、遂には、弁護士になることを諦めようかとも思いました。しかし、ここで諦めてしまったら、弁護士になるために費やしてきたもの全てが劣等感に変わり、死ぬまで自分につきまとってくるような気が

自分だけが取り残されていくような気がしました。また、なまじ弁護士を目指しているだけにプライドだけは高い反面、中身が全く伴わない自分に対し、激しい嫌悪感を抱くようになりました。このように私は徐々に追い詰め

ました。そこで、私は、なんとしても弁護士になることを決意しました。そして、日雇いで土木工事等をしながらお金を貯め、法科大学院へ進学することにしました。



その後、慶應義塾大学法科大学院に合格し、司法試験にも無事合格しました。

四、最後に

弁護士になってみてやはり思うのは、あるとき弁護士になることを諦めないでよかったということです。あれほど辛かった浪人時代の経験も、今では単なる笑い話です。むしろその経験があったからこそ、今こうして毎日楽しく仕事ができるのかもしれない。

士になりたいたと告げました。すると、冗談だと思われたのか、先生は笑いながら、もう一度考え直さなさいとおっしゃいました。それほど当時の私（成績も含め）と弁護士という職業はかけ離れていたのです。それでも私は考えを曲げず、結局、弁護士を目指すことにしました。

されたために、司法試験合格者数が年々減らされていった時期でした。そのため、年々合格のハードルは高くなっていき、他方でロースクールの高額な学費を捻出する経済的余裕もありませんでした。正直、私は絶望しました。友人が

られていき、遂には、弁護士になることを諦めようかとも思いました。しかし、ここで諦めてしまったら、弁護士になるために費やしてきたもの全てが劣等感に変わり、死ぬまで自分につきまとってくるような気が

自分だけが取り残されていくような気がしました。また、なまじ弁護士を目指しているだけにプライドだけは高い反面、中身が全く伴わない自分に対し、激しい嫌悪感を抱くようになりました。このように私は徐々に追い詰め

ました。そこで、私は、なんとしても弁護士になることを決意しました。そして、日雇いで土木工事等をしながらお金を貯め、法科大学院へ進学することにしました。

(平14高卒)



霧中で夢中だった

三年間

内田 健次

70年安保前夜で行き先の見えない時代、熱病の如く学生運動の真つただ中にいる大学生を見て思った。自分は漫然と過ごしていて、良いのか？何かしなければ！この世に“生”を受けた価値をどうすれば見出せるのか？

代々木や新宿のデモにも参加した。左翼の新聞も読んだ。でも何かが違う気がした。口角泡を飛ばし国の行方を論ずる。答えは出ないが充実感もあった。その一方で自分

探しを目的にヒツチハイクで北海道にも行った。人との触れ合いに心が和らいだ。

そんな高校時代を越え、

時を経て、二人の娘から高校はどこが良いかを聞かれ、自分の母校を推した。私自身が他校を知らないこともあるが、中学時代に比べ、世界が広がった場所が豊高だったからだ。

この年になってまだ自分探しが達成されたとは思わないが市議会議員をさせていただいた。豊高という共通項だけでもよき先輩と出会うことが出来た。今後も「無我」で、この国の行く末を本気で考え続けてゆきたいと思う。(昭45高卒)



いつかの夢は

甲子園

粕谷康一郎

当時内閣官房長官だった小渕さんが「平成」の二文字を掲げた、今から四半世紀前に私は本校を卒業しました。

高校時代の思い出という、部活動に明け暮れた野球漬けの毎日だったことでしょうか。夏の暑い太陽と芝の匂い。これが真つ先に頭に浮かんできます。

時代はまさにバブル全盛期。世間には渋谷・トレンドイドラマといった華やかな言葉が溢れる中、そんなものとはまったく無縁の男くさい環境で三年間を過ごしました。

野球部に入部した一年目の夏、県予選で先輩方がベスト8に入るとい

快挙を成し遂げました。新入部員の私たちにとっては、非常に衝撃的な出来事で、ほんの少しだけ甲子園を意識することができました。これがその後の野球に対する取り組みに大きな影響を与えたことは言うまでもありません。



せん。

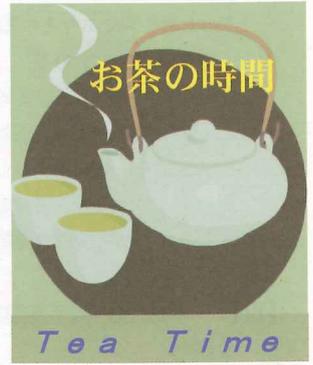
残念ながら我々の代は思うような結果を残すことはできませんでしたが、厳しい練習に耐えてきた三年間が自分の人生の礎になっていいることは間違いありません。またそこ

には野球を通して苦しい思いを共有した仲間がいました。今でも寄りあえば昔話に花が咲き、あつという間に当時に帰ることがができます。今こうして自分らしくいられるのも、高校三年間の経験があつてこそだと感じています。

今私は地元で商売をしています。地域のボランティア団体などで出会う方々の中には本校の卒業生が大勢いらつしやいます。私自身も商売をやつていく上で非常に心強く思うと共に改めて本校の歴史と伝統の重さを痛感しています。

いつかバス数十台で甲子園に応援に行く日を夢見て、今後の野球部の活躍を祈念し、本校のさらなる発展を心から期待しています。

(平2高卒)



**昭和37年卒  
「商業科 台同窓会」**

**開催**

去る四月十二日(土)、昭和三十七年三月卒業の「商業科 台同窓会」を開催しました。豊高に四十五名が集合。声張り上げて校歌



と応援歌を歌い、昔日の豊実時代が蘇ってきました。その後、入間市産業文化センター集會室に場所を変えて一次会。懐かしい思い出の時間は瞬間に過ぎ去り、予定の時間が来てしまいました。そのまま別れてしまふ寂しさから、「かどや」にて更に賑やかな二次会となりました。その時の皆の声が今も耳の奥で響いています。

(粕谷 守 昭37高卒)

**昭和54年卒**

**プチ同窓会を飯能で**

五月十八日(日)、飯能の「サンレモ」にて、昭和五十四年三月卒業生のプチ同窓会が開かれました。

口コミやメール等で参加者を募集し、二ヶ月の募集期間で三十六名が集まりました。多くの人が、卒業以来三十五年も会っていなかったようです。高校の時ですら話し

たこともない人がいます。シーンとしたら何をすればいいのだろうと心配でした。

ところが、そんな心配をよそに、出席者が集まると開会も待たず「〇〇と××は付き合ってたよね?」「△△に憧れていたんだ」「□□は相変わらずきれいだねえ」などと、およそ五十三・四のおやじ・お婆さんの話題とは思えない程、全く成長していない会話で、大盛り上がり。同級生の結婚カップルが五組とは、今の高校生には話せませんね。

三時間の予定が四時間に延び、さらに二次会へ。気付けば夜も九時という、実に八時間の完走でした。

「楽しかった」「元氣をもらえた」「高校生に戻ったみたい」などのコメントが寄せられました。ネット上のボックスやフェ

イスブックで当日の写真や感想など共有しています。次は正式に開催すればという声もあります。



参加されなかった方もなつかしい顔ややんちゃな事をしている同級生が観察できますのでご連絡をお願いします。

(竹内啓明 昭54高卒)



★会報ありがとうございます。豊高新聞部員として第1回目の発行したときのことを思い出します。(M・Kさん)  
★遠い九州からメールを送ります。役員のみならず本当にごくろうさまです。(M・Hさん)

賛助金振替用紙の通信欄に大勢の方から感想をお寄せ頂きました。その中から三人の方をご紹介します

★編集委員の皆さん同窓会報6号ありがとうございます。7号楽しみにしています。6号からのカラー化見やすいです。これからもよろしくお願ひします。(Y・Kさん)

上記のとおり平成25年度の決算報告をいたします。

平成26年 6月30日

埼玉県立豊岡高等学校同窓会 会長 木下 博

上記決算を監査した結果、正確にして相違ないものと認めます。

平成26年 6月 6日

埼玉県立豊岡高等学校同窓会 監事 長谷部 安

埼玉県立豊岡高等学校同窓会 監事 西 澤 昇

【Ⅲ】平成26年度事業計画 (案)

(1) 会議等

○常任理事会 平成26年6月30日

(2) 同窓会報の発行 第7号

- ・目的：母校の活動情報提供と会員同士の情報交換等
- ・発行：9月発行 同窓会入会式には新会員に配布予定
- ・内容：在校生の活動結果、卒業生紹介、他
- ・部数：3,000部予定

(3) 文化祭参加 平成26年9月6日、7日

・同窓会報の配布

(4) 百周年記念誌の発行準備

- ・目的：百周年を目処に母校の歴史をまとめる。百周年記念誌発行委員会の発足の下準備をする。
- ・作業：編集方針の試案作成と資料の収集計画及び記念誌発行委員会の構成・予算等の検討

(5) 同窓会入会式説明 平成27年3月11日予定

(6) 卒業生全員に卒業証書ケース贈呈

(7) 第67回卒業式出席 平成27年3月12日予定

(8) 賛助金の受付

- ・同窓会会報の発行に向けて、会員より同窓会会計への援助をお願いする。
- ・金額：一口 1,000円
- ・方法：ゆうちょ銀行に開設した口座に振込  
名義「埼玉県立豊岡高等学校同窓会」毎年、決算の際に報告する。

【Ⅳ】平成26年度予算 (案)

1 普通預金の部

(収入)

(単位：円)

科 目	予算額	摘 要
1 会 費	915,000	3,000円×305人(26年度卒業生)
2 賛助金	100,000	1,000円×100口
3 繰入金	0	
4 雑 入	918	預金利子
5 繰越金	2,985,082	前年度から繰越
合 計	4,001,000	

(支出)

(単位：円)

科 目	予算額	摘 要
1 会議費	250,000	常任理事会経費
2 慶弔費	100,000	慶弔費
3 事務費	100,000	消耗品購入費
4 卒業生費	150,000	卒業証書ケース代
5 激励費	100,000	大会参加激励費等

6 講師謝礼費	50,000	講演講師謝礼
7 積立金	0	
8 支援費	0	
9 周年行事費	0	
11 繰出金	400,000	同窓会特別会計へ繰出
12 予備費	2,851,000	
合 計	4,001,000	

上記のとおり提案いたします。

平成26年 6月30日

埼玉県立豊岡高等学校同窓会 会長 木下 博

2 定期預金の部

(収入)

(単位：円)

科 目	予算額	摘 要
1 繰越金	18,028,231	前年度から繰越
2 積立金	0	
3 預金利子	3,769	預金利子
合 計	18,032,000	

(支出)

(単位：円)

科 目	金 額	摘 要
繰出金	0	
合 計	0	

上記のとおり提案いたします。

平成26年 6月30日

埼玉県立豊岡高等学校同窓会 会長 木下 博

3 同窓会特別会計の部

(収入)

(単位：円)

科 目	予算額	摘 要
1 繰入金	400,000	普通預金の部、繰出金より
2 預金利子	50	預金利子
3 繰越金	1,550	前年度からの繰越
合 計	401,600	

(支出)

(単位：円)

科 目	金 額	摘 要
1 会議費	30,000	編集委員会会議費
2 事務費	350,000	会報・封筒印刷・送料
3 予備費	21,600	
合 計	401,600	

上記のとおり提案いたします。

平成26年 6月30日

埼玉県立豊岡高等学校同窓会 会長 木下 博

【Ⅴ】その他 特記事項なし



平成24年度卒業記念品  
校舎壁面に設置された  
校名標示板

# 平成26年度 常任理事会報告

過ぐる平成26年6月30日、「埼玉県立豊岡高等学校同窓会」平成26年度常任理事会を開催し、無事終了致しましたのでその概要をお伝え致します。

## 議 事

### 【I】平成25年度事業並びに決算・監査報告

#### 1 平成25年度 『事業報告』(案)

- (1) 会議等
  - 常任理事会 平成25年6月21日
- (2) 同窓会報の発行
  - 第6号 平成25年12月10日発行
  - ・平成26年3月同窓会入会式に新会員に配布
  - ・各年度の同窓会係に600部郵送
  - ・在校生940人に配布
  - 主な内容：卒業生からの手紙・豊校概況（進路報告等）他
- (3) 文化祭参加 平成25年9月7日
  - ・同窓会報の配布
- (4) 同窓会入会式説明 平成26年3月11日
  - ・同窓会の役割、会則等の説明
- (5) 卒業生全員に卒業証書ケース贈呈
  - ・305人分
- (6) 第66回卒業式 平成26年3月12日
- (7) 関東・全国大会出場選手の激励
  - ・アーチェリー日韓交流大会出場
  - ・関東高等学校アーチェリー選抜大会出場
  - ・アーチェリー全日本室内選手権大会出場
  - ・全国高等学校アーチェリー選抜大会出場
- (8) 同窓会会報賛助金の受付

### 【II】平成25年度 『決算報告及び監査報告』

(自平成25年4月1日 至 平成26年3月31日) (案)

#### 1 普通預金の部

収入済額 支出済額 残額(翌年度へ繰越)  
3,540,727円 - 555,645円 = 2,985,082円

(収入) (単位：円)

科 目	金 額	摘 要
1 会 費	915,000	3,000円×305人(25年度卒業生会費)
2 賛助金	319,000	1,000円×319口
3 繰入金	0	
4 雑 入	330	預金利子
5 繰越金	2,306,397	前年度から繰越
合 計	3,540,727	

(支出) (単位：円)

科 目	金 額	摘 要
1 会議費	150,825	常任理事会経費
2 慶弔費	0	
3 事務費	15,620	郵券購入・ポスター製作費
4 卒業生費	99,200	卒業証書ケース代

5 激励費	90,000	関東大会・全国大会等出場
6 講師謝礼費	0	
7 積立金	0	
8 支援費	0	
9 周年行事費	0	
11 繰出金	200,000	特別会計へ繰出
12 予備費	0	
合 計	555,645	

上記のとおり平成25年度の決算報告をいたします。

平成26年 6月30日

埼玉県立豊岡高等学校同窓会 会長 木下 博

上記決算を監査した結果、正確にして相違ないものと認めます。

平成26年 6月6日

埼玉県立豊岡高等学校同窓会 監事 長谷部 安

埼玉県立豊岡高等学校同窓会 監事 西 澤 昇

#### 2 定期預金の部

収入済額 支出済額 残額(翌年度へ繰越)  
18,028,231円 - 0円 = 18,028,231円

(収入) (単位：円)

科 目	金 額	摘 要
1 繰越金	18,024,635	前年度から繰越
2 積立金	0	
3 預金利子	3,596	預金利子
合 計	18,028,231	

(支出) (単位：円)

科 目	金 額	摘 要
繰出金	0	
合 計	0	

上記のとおり平成25年度の決算報告をいたします。

平成26年 6月30日

埼玉県立豊岡高等学校同窓会 会長 木下 博

上記決算を監査した結果、正確にして相違ないものと認めます。

平成26年 6月6日

埼玉県立豊岡高等学校同窓会 監事 長谷部 安

埼玉県立豊岡高等学校同窓会 監事 西 澤 昇

#### 3 同窓会特別会計の部

収入済額 支出済額 残額(翌年度へ繰越)  
295,157円 - 293,607円 = 1,550円

(収入) (単位：円)

科 目	金 額	摘 要
1 繰入金	200,000	普通預金繰出金より
2 預金利子	27	預金利子
3 繰越金	95,130	前年度からの繰越
合 計	295,157	

(支出) (単位：円)

科 目	金 額	摘 要
1 会議費	0	
2 事務費	293,607	第6号会報・封筒印刷代、送料
3 予備費	0	
合 計	293,607	

授章をばねに

百周年に向けて

同窓会副会長 大野 満



會員の皆様に、校歌の一節「出藍の誉」を具現化した吉報をご報告致します。

本会会長の木下博氏が、人間市長としての五期二十年に亘る功績が認められ、昨春秋に旭日中授章を受章されました。その祝賀会が、先日関係者約五百名の出席の下盛大に催され、来賓の一人、狭山市長であり本会副会長でもある仲川幸成氏から、木下氏が本会会長に推された折のエ

ピソード等、ユーモアを交えてご祝辞を頂きました。我々同窓会としましても、無上の喜びであり、木下会長の今後のご健康とご活躍を切に願うものです。

さて、小紙「出藍」は母校創立九十周年を機に、同窓会活動が会員皆様の「心のオアシス」となることを願い、平成二十二年三月に創刊されました。学校と連携を図り情報を一元化するという意味で、「出藍」の発行は極めて重要な役割を果していると確信しています。又、二万三千名の会員皆様方には母校の動向に、同窓会の活動に関心を持って頂き、本会次の大目標、同三十二年予定

◎次号の予告と

原稿のお願い

次号は、特集「胸張る豊高OB」を中心に、平成二十七年九月一日の発行を予定しています。つきましては、来年五月末日を目途に、「在学時代の思い出」や「近況報告」、「文芸作品」、「写真やものづくり紹介等の趣味作品」、「同窓会情報」、「その他」一般投稿を募集しております。不明の点は、同窓会事務局・編集委員会迄お問い合わせ下さい。

賛助金へのご協力

ありがとうございます



賛助金へのご協力、本当にありがとうございます。昨年度は、三十一万九千円の賛助金を、皆様のご理解とご協力により、頂戴いたしました。

今年も同封の振替用紙、又は郵便局備付の振込用紙を用いて「加入者名・埼玉県立豊岡高等学校同窓会」「口座記号番号・00160055485115」宛ご協力をお願い致します。

編輯後記

▼正門正面の校舎壁面に校名板が設置された。悠然たる面持ちである。訪れるたびに「若草の像」の前から見上げてしまふ。あらためて校舎が綺麗になつたと感じる。毎月母校に来られるのは、編集に係わっているおかげである。この眺めを多くの卒業生にも味わって欲しい。(も)

▼去る三月十二日、母校教員として初の卒業生を出した。大変幸せな瞬間であり、これまでの辛い思い出も吹っ飛んだ。最後の校歌斉唱では、改めて母校の校歌はすばらしいなと感じた。「出藍の誉」この言葉を噛みしめ、

今年は一年の担任。生徒と共に、素晴らしい先輩方に恥じない学校づくりを目指して頑張っていく所存である。(黒)

発行所

〒三五八〇〇〇三 入間市豊岡一―一五―一  
埼玉県立豊岡高等学校同窓会 会報編集委員会  
TEL〇四―二九六二―五二二六 FAX〇四―二九六〇―一〇五三  
メールアドレス toyokoudousoukaikai@toyooka-hspec.ed.jp

博宏 木下博宏  
足立 木下博宏  
編集委員 大野清恵・黒田哲・高原本橋  
大野清恵・黒田哲・高原本橋